

取組の成果・課題			
記号	ア	事業分類	心の教育の推進
<p>○人形劇鑑賞や素話 想像性を膨らませながら見たり聴いたりすることを通して、お話の世界に浸る楽しさを味わうことができ、心を耕すきっかけとなった。</p>			
記号	イ	事業分類	保育の充実
<p>○日本の伝統文化や行事に触れる活動(クリスマス会・しめ縄づくり・獅子舞見学・お茶会・節分等) 日本の伝統行事は、ひとつひとつに、伝えていきたい意義を含んでいる。今、保護者年齢の若返りや核家族化が進んでいて、保護者自身が伝統文化に対して実体験していないことが多く、園で果たす役割が大きくなっていく。今年度、新型コロナウイルス感染症に留意しながらできるだけ正しい伝統文化を体験したことで、昔からの由来や方法を園児に伝えることができた。また、行事で体験したことや感動したことを振り返り表現することを通して、自分たちの遊びに取り入れていく園児の姿も見られ、保育の充実につながった。</p>			
記号	エ	事業分類	体験活動の充実
<p>○栽培活動・積み木遊び・運動教室・和太鼓教室 園内の畑では、玉ねぎ、ジャガイモ、サツマイモなどの苗を買い付け、子供たちと一緒に育て収穫することができた。自分が心を込めて育てた野菜が収穫できるまで成長し、おいしくいただく過程を通して、生命の不思議さや食育についても学ぶことができた。また、積み木や和太鼓など専門的な外部講師をお招きし分かりやすく指導していただくことで、専門的な技術を楽しみながら身に付けることができた。さらに、講師の先生の生き方や皆で心を合わせて演奏するすばらしさを学ぶことを通して、相手を思いやりたり諦めずに挑戦し続けたりする姿勢など、園として願う姿を達成することができた。</p>			
記号	オ	事業分類	交流活動の充実
<p>○和田幼稚園との交流・震災支援体験 和田幼稚園との田んぼにおける交流活動は、この地域の特産物で長年継続しているものであり、1年に4回行われる。今年度も回を重ねたことで、子供同士会話を楽しむ姿が見られ、「同じ校区の友達」という心のつながりができたことを感じた。また、東日本大震災支援の面では、目に見えない相手への支援であるため、心をつなぐことにおいて難しさがある。教師が意識し、震災の恐ろしさや思いの伝え方を工夫してきた。また震災から10年以上の月日が流れたが、風化させないことも大切だと考え、災害について考える講話を年長児を対象に親子で行った。この活動によって、防災について再度家庭で考える機会となったのではないかと感じる。子供たちの心にも、災害の恐ろしさや自分たちのできる支援を考えることにつながったと思う。地域のよさを感じたり地域の人々とも交流できたりするこの活動を自園ならではの特色ある活動として、次年度も取り入れていきたいと考える。</p>			
記号	キ	事業分類	地域・家庭連携の推進
<p>○父親との触れ合い・地域や人材を活かした栽培活動 保護者や地域を巻き込んだ活動は、公立幼稚園ならではの特色ある活動である。父親との関わりにおいては、社会全体が子育てへの参加を推進しているため、以前に比べて父親と関わる機会が多いように感じる。一方で、スマホの普及により、休日には親子でスマホゲームを楽しむことも多いと聞いている。幼児期に必要なことは、心や体の直接的な触れ合いであると思う。今年度、簡単に家庭でも楽しめる触れ合い遊びや身近な物を使っての遊びを提示してもらったことで、保護者にとって、子供との関わり方の見直しや遊びの広がりになったと推測する。また園児においては、保護者や地域の方々の愛情を受けながら生活・活動できることに対する幸福感を得ることができたと思われる。次年度も、家庭や地域と連携した活動を取り入れ、互いが今の自分たちにできることをしながら、子供を育てることや教育に参加することの喜びを感じてくれたらと願う。また、栽培活動にはシニアクラブの方々のお手伝いもいただき、大変ありがたかった。子供たちも栽培について分かりやすく教えていただいたり、お年寄りとふれ合うことを通して優しさの大切さを学んだりすることができた。</p>			
記号	ケ	事業分類	協議会運営事業
<p>○推進協議会 新型コロナウイルス感染症拡大のため、推進委員の方々にはなかなか来園できない状況であったが、主な行事には子供たちの成長の様子を見ていただいた。また、都合のよい時間を見つけて、普段の保育を参観しに来ていただいた委員の方もいらっしゃった。推進協議会では、たくさんの委員の方から多面的・多角的なご意見をいただいた。次年度の方針に役立てていきたい。</p>			